BOP／ボリュームゾーンビジネス実態調査レポート

JETRO

カザフスタン

企業訪問調査レポート【4】

Eco Product Trading LLP

～ 流通・小売業（乳製品）～

Eco Milk LLP ～ 食品製造業（乳製品）～

■ カザフスタン共和国※ ― 基礎データ ―

- 面積：272万 4,900平方キロメートル〔日本の7倍〕
- 人口：1,716万人（2014年1月1日現在）
- 首都：アスタナ ／人口約81万人
- 名目GDP：2,319億ドル（2013年）
- 1人あたり名目GDP：1万3,612ドル（2013年）
- 実質GDP成長率：6.0%（2013年 カザフ国民経済省国家統計委員会）
- 為替レート：1ドル ≒ 183.80 テンゲ（2015年1月16日）

出所：JETROホームページ 国・地域別情報（J-FILE）「カザフスタン概況（2015年1月更新）」

※1991年12月 国名を「カザフスタン共和国」に変更し、共和国独立宣言を行った。

■ 調査日 ： 2014年 12月15日

■ 分野 ：流通・小売・食品製造（乳製品）

■ 特徴 ：Eco Product Trading LLP（Eco Product）、Eco Milk LLP（Eco Milk）共にAzbuka Zhiljya社（建設業、持ち株会社）のグループ企業である。
Eco Product社からの発注に基づきEco Milk社が乳製品を生産し、Eco Product社が販売している。
社名の“Eco”やブランド名の“Eco Milk”は、スローガンである「環境にやさしい乳製品を経済的な価格で」に由来する。パッケージの原料は自然素材のみを使用し、印刷も色数を極力少なくするなど、環境保護を強く意識した製品作りをしている。

企業概要

■ 社名 ：〔流通・小売〕Eco Product Trading LLP（Eco Product）
：〔乳製品製造〕Eco Milk LLP（Eco Milk）

■ 住所 ：〔Eco Product〕010000 Vyacheslavskogo-street, 5, Astana
：〔Eco Milk〕Akkol-town, Bigeldinova, 141/2, Akmola region, Kazakhstan

■ 事業所 ：〔Eco Product〕本社：アスタナ 支社：アルマトイ、
販売代理店：コクシェタウ市（アクモラ州）、ステプノゴルスク市（アスタナ近郊）
：〔Eco Milk〕 工場：アクモラ州

■ 設立年 ： 2014年 7月

■ 従業員数 ：〔Eco Product〕70人 〔Eco Milk〕76人

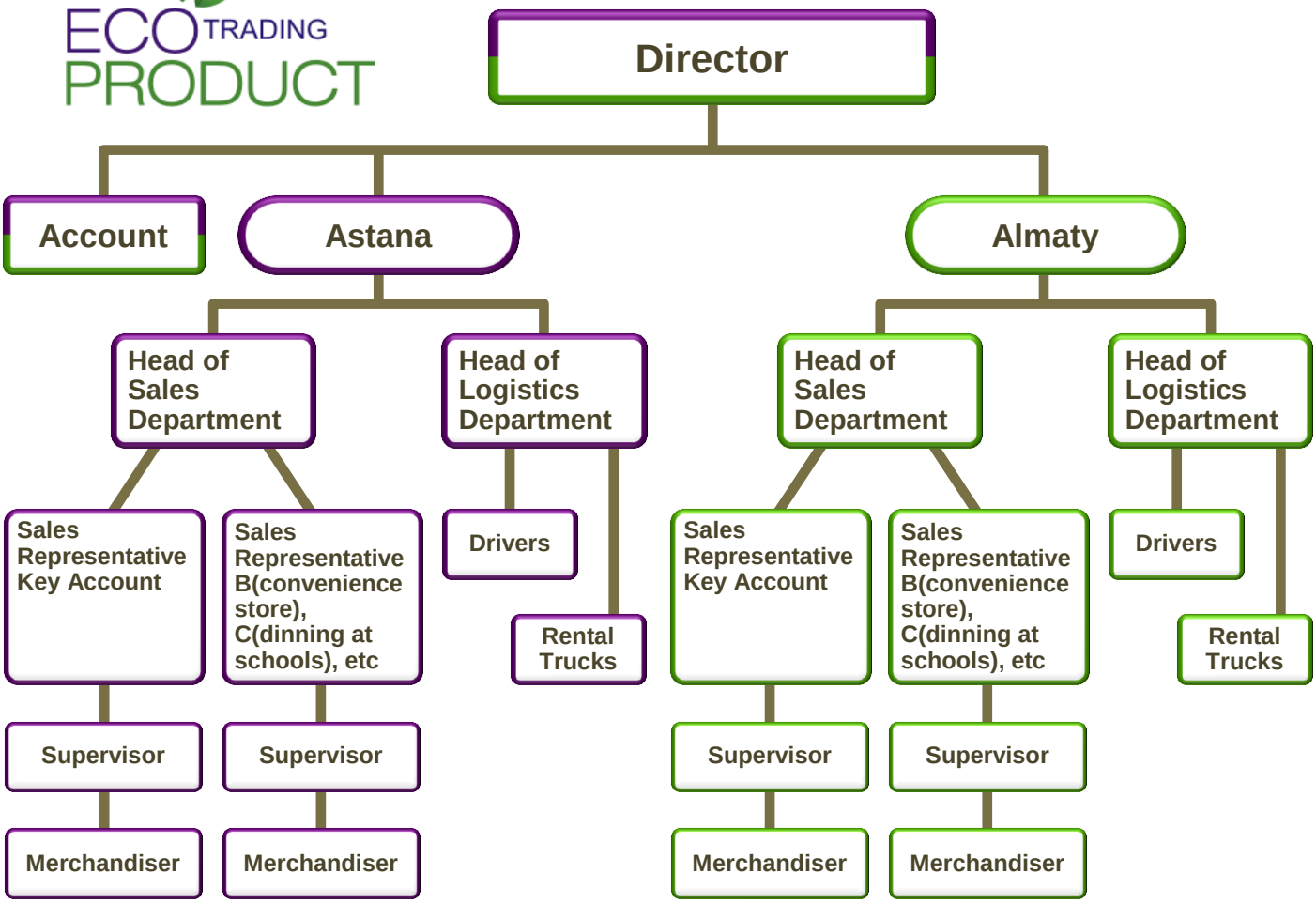
■ 事務所面積 ：〔Eco Product〕アスタナ本社：100m²（他に倉庫：100m²）
アルマトイ支社：85m²（他に倉庫：216m²）

■ 社是 ：環境にやさしい乳製品を経済的な価格で

Eco Milkの工場

Copyright (C) 2015 JETRO. All rights reserved.

Eco Product 組織図



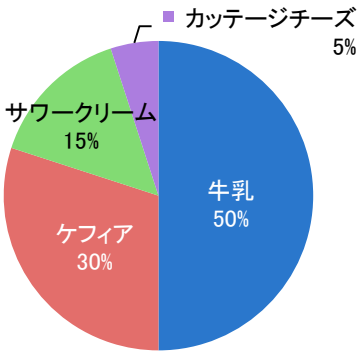
ビジネスの概要 ①

主な製品

製品名	乳脂肪分	パッケージ	消費期限（未開封）
低温殺菌牛乳	2.5%、3.2%	紙パック、瓶 テトラパック	紙パック*1：10日 瓶：5日
ケフィア （Kefir：発酵乳飲料）	2.5%	紙パック、瓶 テトラパック	紙パック：21日 テトラパック：15日 瓶：7日
カッテージチーズ	5%		3日
サワークリーム	10%、15%、20%	紙パック*2 ポリボトル*3	21日

*1：テトラパックを含む。　*2：乳脂肪分10%　*3：乳脂肪分10・15・20%

〔製品の売り上げ構成〕



2015年中に高温処理牛乳（乳脂肪分3.2および6%）を市販予定。この他、ビタミンと善玉菌添加の発酵乳やバターなど、新製品の製造を計画している。

JETRO
Copyright (C) 2015 JETRO. All rights reserved.

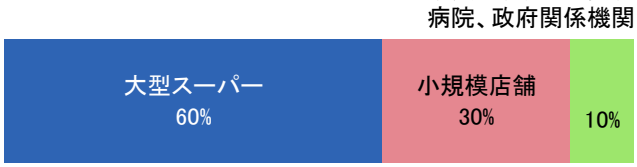
ビジネスの概要 ②

商品の流通

■主な卸し先

- ●大型スーパーマーケット：
  Magnum、Astykzhan、Metro、Small、Ramstor、Green Mart、Skif、Bachus、Galmart、Arzan　など
- ●住宅街周辺の小規模店舗

■卸し先別の売上構成



大手スーパーでのEco Milk製品陳列風景

■配送車両

- ●アスタナ市内向け　：10t冷蔵庫トラック1台を含む計12台（うち6台はリース車両）
- ●アルマトイ市内向け　：3t冷蔵庫トラック1台を含む計8台
- ●長距離輸送　：鉄道

Eco Milk工場からアルマトイ市内への製品輸送は、輸送業者に委託し20t積みの冷蔵庫トラックで運んでいる。

長距離の輸送には鉄道を利用する

グループ戦略

- ●直営牧場を経営し、蛋白質、脂質、炭水化物、ビタミン、ミネラル等の栄養素バランスと消化吸収に配慮し、しっかり品質管理された原乳を確保している。
- ●流通コストを抑え低価格を維持するため、小売店1店舗につき、同種商品の品揃えの中で30%を占めるよう、積極的な売り込み攻勢をかけている。また品質を落とさずに可能な限りのコスト削減で低価格を実現し、消費者を惹きつけている。
- ●消費者は、ソビエト連邦（以下ソ連）時代の瓶入り乳製品に郷愁を持っていることから、今では珍しくなった瓶入り商品の販売を続けている。
- ●カザフスタンの食品にはヨウ素がほとんど含まれていないため、特に女性を中心として甲状腺疾患者が多い。今後、高温処理や栄養素の添加技術などを整備して、ヨウ素や必須ビタミンの添加を検討している。

社会貢献活動

アルマトイ市内の孤児院に対し、資金支援やパーティーの開催、その他活動のためのボランティアを行っている。

今後の計画

Eco Productでは、賞味期限の長い高温・加熱処理牛乳を西部地域などの遠隔地をはじめ、ロシアや中国他へ輸出すべく計画している。またEco Milkでは、製造設備を新たに購入し、バターの製造に着手すると共に、発酵乳飲料や微量栄養素添加の乳製品製造技術を導入したいとしている。

Copyright (C) 2015 JETRO. All rights reserved.

ビジネスの概要 ③

販売促進活動

〔小売業者など企業顧客向け〕

- 7日間以内の代金支払い遅延を認める
- Eco Milk工場から顧客企業が自社で商品を搬出する場合は、5%の割引
- 購入数量の10%を上乗せサービス（10個注文すれば1個サービス）

〔一般消費者向け〕

- ディスカウント･セール
- 購入金額に応じた粗品進呈（香水、服、プリペイドの携帯電話など）
- 試飲会の実施
- ダイレクトメール、展示会開催

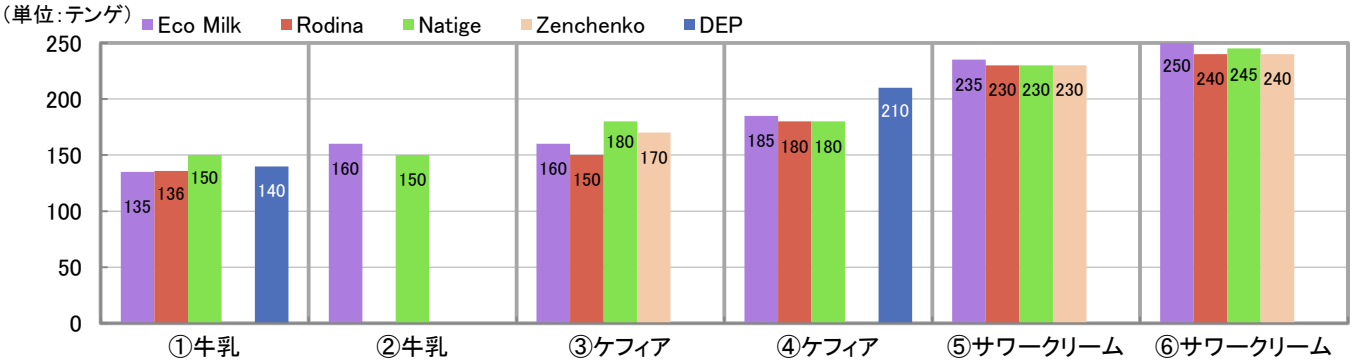
今後テレビ、新聞、雑誌などマスコミを利用した広告（ATL）も検討する予定。

競合他社

- Ren Milk LLP
- Natige LLP
- Food Master LLP（高級商品分野で競合）
- Rodina LLP
- Zenchenko Individual Entrepreneur
- Agroproduct LLP
- Adal LLP
- Vimbildan（キルギスの企業）
- Danone Kazakhstan LLP（主にヨーグルト類）
- DEP LLP

他社製品との競争の焦点は商品価格であり、原乳をいかに安く大量に仕入れられるかが勝負となる。
上記企業のうちFood Masterは技術と資金力で抜きん出ており、アルマトイ市とカザフスタン南部地域およびパブロダール州の牧場170ヵ所から原乳を集荷している。

〔アスタナにおける乳製品価格調査〕



製品名	Eco Milk	Rodina	Natige	Zenchenko	DEP
① **牛乳**（乳脂肪分2.5%･テトラパック1L入り）	135	136	150		140
② **牛乳**（乳脂肪分2.5%･紙パック1L入り）	160		150		
③ **ケフィア**（乳脂肪分2.5%･テトラパック1L入り）	160	150	180	170	
④ **ケフィア**（乳脂肪分2.5%･紙パック1L入り）	185	180	180		210
⑤ **サワークリーム**（乳脂肪分15%･0.4L入り）	235	230	230	230	
⑥ **サワークリーム**（乳脂肪分20%･0.4L入り）	250	240	245	240	

※赤数字は最安値　　（単位：テンゲ）

Copyright (C) 2015 JETRO. All rights reserved.

ビジネスの概要 ④

日本（外資系）企業へ期待すること

日本企業の出資を歓迎すると共に、乳製品の保管や長距離輸送、ビタミン添加に関する技術提供を求めている。

ビジネスの概要：Eco Milk

生産量・生産能力

1日の生産量4tからスタートし、現在の生産量は16t/日に拡大。工場では、牛乳および発酵乳製品を合わせ生産量100t/日規模の生産能力を有している。今後は毎年20%の増産を目指しており、高温処理牛乳生産を開始すれば、生産量の拡大により、西部地域を含む全土に供給が可能となる。

放牧

前搾り

ロータリーパーラーによる搾乳

瓶詰め工程

Eco Milk 工場の生産設備と増設計画

主な生産設備は、REDAの完全自動低温処理機（1万L/時）やBertoliのホモジナイズ※処理機（1万L/時）などイタリア製最新機械であり、カザフスタンでは唯一Eco Milk工場が導入している。その他の主な設備は以下のとおりである。※牛乳に含まれる脂肪球を直径2マイクロメーター（1μm＝1/1,000mm）以下に小さくし、均質化すること。

- 主要設備の付属品　：BOSH（ドイツ）、Wilo（ドイツ）、Riello（イタリア）、Alfa Laval（スイス）
- 包装・充填機械　：Four One（ロシア製のペットボトルとガラス瓶への充填機械。国内で保有しているのはEco Milk工場のみ。）、Tauras Phoenix（ロシア）、Profitex（ロシア）

ロシア製の充填機

政府は、製造業への投資誘致促進政策を考えており、EcoグループではEco Milk工場の設備拡張に充てられるよう、政府に働きかけを行っている。これが実現すれば、現在老朽化し、高熱処理ライン導入のネックとなっている2MW変電設備の交換や、高熱処理ラインの新設が可能となり、生産量や商品の品揃えの拡充につながる。結果、2015年中をめどに乳製品の総生産量を150tに拡大することができる。加えて輸出を開始し、年間1万tの乳製品が不足しているロシアを市場に収めることが見込まれ、Eco Milk工場が立地するAkkolにおいて、新たな雇用機会の創出が期待されている。

〔Eco Milk工場の生産工程〕

1. 基準に沿って検品し、原乳を受け入れ
2. 不純物の機械的除去と微生物のフィルター除去
3. 高脂乳と脱脂乳に分離
4. 商品別仕様に沿って脱脂乳に脂肪分を添加（1～4%）
5. 脂肪分を粉砕してホモジナイズ
6. 低温殺菌し、善玉菌叢を粉砕
7. 貯蔵寿命を延長するため-2℃に冷やし、パッケージに充填

低温殺菌機

パッケージのシートロール
（袋入り牛乳用）

Copyright (C) 2015 JETRO. All rights reserved.

カザフスタンにおける酪農業の概況

酪農業全体の問題

疾病予防など乳牛飼育技術の低さ、加工技術や量産体制が不十分であるため、国産乳製品は価格や品質、供給量の面において市場競争力に欠けている。

原乳集荷の問題

かつては各地域に小さな原乳加工場があり、牧畜農家はそこへ牛乳を運び、まとめて製造工場に運ぶシステムがあった。しかしソ連崩壊後、そうしたシステムは次第に無くなり、乳製品メーカーは数十キロメートル四方に散在する零細牧場を回って原乳を集めなければならず、これも、生産コストを引き上げる要因となっている。

Eco Milk工場の車両（ミルクローリー）

乳牛の乳量

カザフスタンの1頭当たりの年間乳量は、ベラルーシの4.7t/頭に比べ2.2t/頭で半分以下と少ない。カザフスタンの牧畜農家はそれだけ余計に乳牛を飼育しなければならず、飼料や燃料等の諸コスト負担が増える。ちなみにベラルーシでは自国内の乳牛の輸出を禁止している。

飼料の調達と保管の問題

カザフスタンでは地形上、牧草地としての適地が限られているため、飼料の価格が高い。資金不足の零細牧場は、栄養バランスの取れた飼料の安定した確保が難しく、また、保管管理が不十分であるため、冬季は夏季と比較して原乳生産量が3分の1に落ちる。そのため、夏季に稼動している加工メーカー190社も、冬季は約40社が休業せざるを得ない状況である。

飼料用のトウモロコシ

乳製品の市場概況

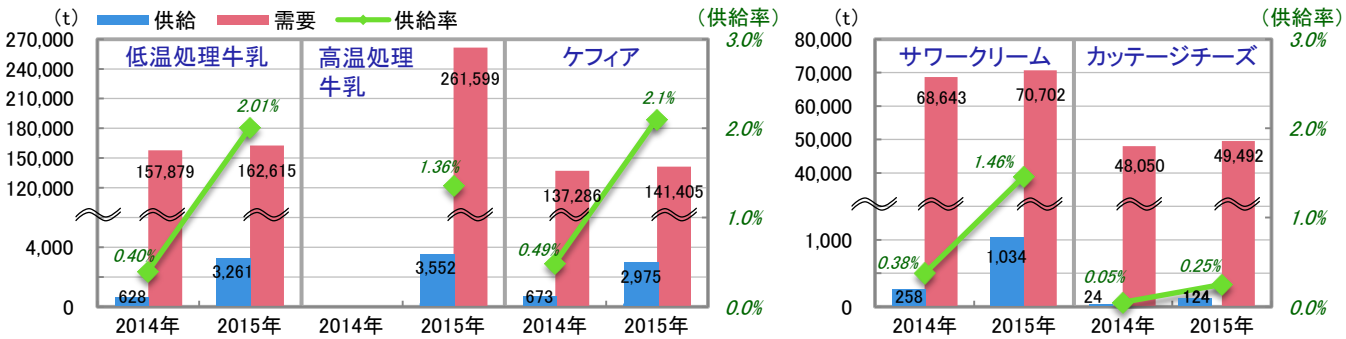
カザフスタンにおける牛乳の消費と嗜好

かつての社会主義体制下では牛乳の価格は安く、炭鉱や工場では無料配布されていた。そのため、1989年には年間1人あたり70Lの牛乳を消費していたが、自由経済に移行後減少し、現在では36Lと落ち込んでおり、ロシアの約2分の1、最大消費国であるフィンランドの約5分の1の消費量となっている。政府は健康増進のため、3年前から牛乳摂取キャンペーンを行っているが、あまり成果が上がっていない。
しかし、カザフスタン人は元来ミルク好きで、紅茶には必ず入れると共に、色々な料理に使用している。なお、現在人気がある乳製品、はヨーグルト飲料や濃縮乳、練乳等である。

乳製品の流通状況

カザフスタンは、世界の乳製品総生産量の1%近くを占める酪農国である。しかし、流通の未整備、短い賞味期限が理由で、生産地周辺のみで消費されている。市場に流通している国産乳製品はわずかで、ほとんどは輸入品であり、生産地から離れた地域の消費者は、価格の高い輸入製品を購入せざるを得ない状況にある。

〔主な乳製品の需要と供給量（2014～2015年）〕



Copyright (C) 2015 JETRO. All rights reserved.

乳製品の市場概況 ―つづき―

乳製品の今後の市場性

カザフスタン国民1人当たりの乳製品消費量は年間260kgと、欧州諸国の600kgの半分に満たない。生産量がそれら諸国の半分であることを考えると、商品さえあれば今後消費が拡大する余地は大きい。国土が広く輸送に時間が掛かるため、賞味期限の長い商品が求められている。長期保存が可能な高温処理牛乳はCIS諸国でも最も価格の高い商品であり、購買力のある国でないと普及し難いが、カザフスタンでは生活水準の向上に伴い、消費者にとって手の届く商品になりつつある。

今後の課題

●牧畜地の確保

カザフスタン独立当初の数年間、土地の所有に規制が及ばなかった。その結果、ソフホーズ（旧ソ連の国営農場）などが所有していた農地、牧畜地のほとんどが住宅団地となるか、大手畜産業者に買い占められる（牧場総面積の80%を占める）、あるいは投機を目的とした私有の遊閑地となり、地主は地価の上昇を待つだけで、牧場など何ら事業が行われなかった。こうしたことが、牧畜用の土地が不足している一因となっている。

●老朽化した牧畜用機材

国内の牧場で使用されている設備の70%が耐用年数を過ぎている。国内に牧畜用機材を製造するメーカーが無く、輸入に頼っているため高価であり、中小畜産農家では500Lの分離機やチーズ類の攪拌槽でさえ、古い設備の買換えが難しい。

●輸入製品との価格競争力に乏しい

ロシアやベラルーシの製品は国産品に比べて20～30%安いといわれている。

政府による発展促進政策

2020年を目標とする農畜産業発展計画では、零細牧場の統合などによる「畜産業大規模化」が中心となっている。かつて牧場の主婦達が牛乳を持ち寄った各地の原乳集荷場を復活させると共に、獣医施設や家畜疾病研究所の増設、家畜固体識別システムの充実、移動放牧地の牧草灌漑整備などを内容としている。
2013～2020年の間に3兆1,000億テンゲを投入し、乳飲料生産量を現状から23%増の3,500億L/年に引き上げるとしている。

【免責事項】本レポートで提供している情報は、ご利用される方のご判断・責任においてご使用ください。ジェトロでは、できるかぎり正確な情報の提供を心掛けておりますが、本レポートで提供した内容に関連して、ご利用される方が不利益等を被る事態が生じたとしても、ジェトロおよび執筆者は一切の責任を負いかねますので、ご了承ください。

Copyright (C) 2015 JETRO. All rights reserved.